

令和4年度 こころ医療福祉専門学校 学校自己評価結果報告書

令和5年4月1日

令和5年1月31日（火）令和4年度学生・教職員アンケート実施
令和5年2月28日（火）令和4年度学校自己評価報告書 運営会議提出
令和5年3月6日（月）令和5年度学校経営目標 運営会議議題提出
令和5年3月15日（水）学校自己評価報告書 本部提出

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0 → 学校自己評価「4」

教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0 → 学校自己評価「3」

教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0 → 学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 令和4年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
(1)授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成
(2)自立する職業人・社会人の育成
(3)留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
(4)「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
(5)学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保
- 5 具体的な対策
(1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
(2)自立する職業人への準備教育の推進
(3)退学者・不登校生の減少対策の推進
(4)国家試験・進路指導の充実
(5)留学生教育の質の向上
(6)「個人自己評価制」の導入による学校活性化
(7)「130名以上の学生募集」-各学科「+10名」の達成
- 6 地域社会等との豊かな関係づくり
(1)学園グループビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
(2)関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
- (2)豊かな人間力の育成
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
- (4)国家試験・進路指導の充実
- (5)「個人自己評価制」導入による学校活性化
- (6)留学生教育の質の向上
- (7)「攻めの学生募集」の推進

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.4】(3.37)
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。 【教職員アンケート 質問2 2.9】(3.0)
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設、医療機関や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営をしている。 【教職員アンケート 質問3 3.1】(3.05)
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーション、定期的校内広報紙、HPでの情報公開等を通じて、繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して、周知状況は確認している。 【教職員アンケート 質問4 2.8】(2.58) 【学生アンケート 質問1 2.8】(2.75)
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど、年々充実しており、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように、各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。 【教職員アンケート 質問5 3.1】(2.89)

①課題

各項目については改善している。一方で、「学校における職業教育の特色は何か」について悪化している。要因として、新型コロナウイルス感染症による実習中止や学内での研修会等の開催ができなかったことが挙げられる。

②今後の改善方策

本校での教育全体が職業に繋がるため、日々の授業において特色が出せるような取組が必要である。卒業生の講話などを積極的に導入していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 3.3】(2.89)
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.2】(3.4)
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。 【教職員アンケート 質問13 2.8】(2.63)

①課題

「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」について悪化している。
また、情報システム化等の業務効率化は依然として大きな課題である。

②今後の改善方策

教育課程編成委員会(分科会も含めて)の在り方を見直していく。
各種学務業務について、都度改善をし業務効率を上げていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 2.8】(2.84)
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.6】(2.58)
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積む取り組みをしている。また、新任教職員に対して、全般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年年に3回全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。

①課題

「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。」について悪化している。

②今後の改善方策

教育課程編成委員会等で指摘を受けている課題を受け、各学科のカリキュラムの見直しに着手する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 3.2】(3.2) 【学生アンケート 質問3 3.1】(3.1)
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻繁に面談を行い、退学率の低減に努めている。 【教職員アンケート 質問29 2.8】(2.68) 【学生アンケート 質問4 2.8】(2.8)
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立っている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.7】(2.74) 【学生アンケート 質問6 2.7】(2.58)

①課題

卒業生へのフォローについては課題が残る。
また、いわゆるリカレント教育については方向性を示せていない。

②今後の改善方策

今年度、卒業生による研修や講話を開始している学科もあり全ての学科に広げていく。
また、引き続き、広報募集媒体においても、卒業生の活躍を取り上げキャリア形成を促していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1

①課題

学生支援については概ね改善しているが、引き続き就職支援について、より就職先との連携が必要である。

②今後の改善方策

卒業生との面談を開始している学科もあり、必要に応じて連絡が取れるように取り組んでいく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	3	2	1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。備品の一部には開校以来の物もあり, 老朽化しつつあるものもあるが, 教育上の支障がないよう, 備品管理委員会が中心となって適時, 更新している。
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1	学外の必要な臨床実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問43 2.8】(2.53) 【学生アンケート 質問17 2.9】(2.88)
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。 【教職員アンケート 質問44 3.3】(3.47) 【学生アンケート 質問18 2.9】(2.89)

①課題

実習施設等の教育体制の整備については, 新型コロナウイルス感染症の影響もあり変更が続いている。

②今後の改善方策

学校財務の許容される範囲内で, 安定した教育環境の構築に向けて設備投資を進めていく。
また, 実習施設については受入れを継続してもらえるような協力体制を構築していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は, 適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって, 入学試験を10月以降に実施しているが, 出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他, 学生募集は適正に行われている。 【教職員アンケート 質問45 3.2】(3.47)
・学生募集活動において, 教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において, 卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など, 正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問46 3.3】(3.47)
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は, 同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.1】(3.26) 【学生アンケート 質問19 2.8(2.52), 質問20 2.8(2.56)】

①課題

募集活動については概ねアンケート回答は良いが, 引き続き適正な募集活動が求められる。

②今後の改善方策

来校者の増加が必要である。
学科により募集課題が異なるため, それぞれの対策が必要である。
学生との接触回数が減少していく中で, 動画素材など, よりコンテンツ力のある広報素材を作成する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中, 入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに, 経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して, 理事長査定を実施し, 適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時, 内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

①課題

退学者数の減少に努めているが、低学年でのより一層の対策が必要である。
募集活動では、高校生出願は伸びている一方で、社会人が減少している。

②今後の改善方策

入学者数の確保だけでなく、退学者の防止を再度優先課題として、学生数の確保に取り組む。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部局, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

個人情報のセキュリティについて課題が残る。

②今後の改善方策

個人情報保護について再度必要性及び制度趣旨を周知し管理していく。
学科学務担当者研修を継続して行い, 基本となる法制度の理解から日々の業務につなげていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4	3	2	1

外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していただいたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。

ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。
【教職員アンケート 質問57 3.0】(2.74)
【学生アンケート 質問21 2.8】(2.66)

職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。

①課題

トレーナー活動「ココサポ」を中心に、教職員学生ともにボランティア意識は高くなっている。
しかし、参加学生は限られており、今後はさらに学校として一体となった活動ができるかが課題である。

②今後の改善方策

スポーツ系のボランティア活動については引き続き「ココサポ」が担う。
「ココサポ」については、教員主導での活動を、学生主体へ移行していく。
その他、各種ボランティア活動については積極的に参加し、学園ビジョンの実現を図っていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	外国人留学生が資格取得可能な学科については、留学生の受入れを積極的に行っている。資格取得学科に進学が可能となる日本語科も平成30年度から設置している。 【教職員アンケート 質問59 3.0】(2.79)
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	外国人留学生の受入れに関し, 専門の職員を配し, 現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し, 適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問60 3.1】(2.95)
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	留学生担当の職員を配するほか, 学科を横断した教員による留学生の学習, 生活指導担当の委員会を作り, 全校をあげての組織的な取り組みを行っている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	海外向けサイトの登録の他情報配信している。

①課題

留学生の就労管理については方法が定まった一方で, 生活支援や健康管理について課題が残る。

②今後の改善方策

留学生の健康管理について, 管理体制の変更が必要である。
生活指導については事務担当者に加え, 担任の面談等でフォローしていく。

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和4年度重点目標に対する総括

(1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成

- ① 中学・高校時代には、「学ぶ」→「わかる」の関わりで就職試験も大学入試も対応可能である。
しかし、育成機関である専門学校では、「学ぶ」→「わかる」→「できる」→「身に付く」という段階の学びが不可欠であることを教員も共有し、機会あるごとに学生にも周知し、意識化を図った。
- ② 「授業は学校のいのちである」と考え、計画的に新任研修・職員研修や学科を定期的に関いて学生の実態把握や指導方策、授業の創意工夫に努め、教育の質の向上を図った。
- ③ 国家試験合格率では、理学療法科90.9%、介護福祉科(日本人)100%、スポーツ柔整科84.6%、スポーツ鍼灸科93.8%であった。
スポーツ柔整科の課題は大きい。他学科のコロナ禍での頑張りは評価できる。
「国家試験年間指導計画」に基づいて計画的・組織的な指導を推進したこと、模擬試験ごと各学科会、学科長ヒヤリング、補講等による基礎学力向上対策、定期的な個別面談等が要因と考えられる。
就職率は、例年同様、全学科100%である。
- ④ 低学力学生の指導目的意識が低い学生の指導の在り方や県外講師等のオンライン授業には課題が残った。
- ⑤ 今年度も新型コロナ感染拡大の中で、教員の事前指導や学生の自学自習姿勢等危機意識を持った取組みが、学生の意識化と学生成果や生活の好転に繋がったと評価している。「与えられる学び」から、自己の「意志ある学び」への脱皮のための指導は不可欠である。

(2) 自立する職業人・社会人の育成

- ① 本校は、「真の職業人」を育成することを目指した教育を推進してきた。
 - お客様第一の考え方ができる。
 - 競争の中で生き抜く力を持つ。
 - 「匠の教育」を推進する。
 - 人に納得してもらえる専門知識・技術を持ち、人に尊敬してもらえる人徳を持つ。
- ② プロフェッショナルを目標とする学生達に、専門官の極意と哲学を学ばせ、人格形成を目指す人間教育と学びがい・働きがい・生きがい等社会人基礎力と職業的実践的育成のための教育を推進した。
- ③ いろいろな各学科の計画はあったが、コロナ禍で、外部講師や同窓生の招聘、臨床実習等も十分機能したとは言い難い。今後も、学生にとっては、「本物に出会う教育」の機会提供は欠かせないと考えている。

(3) 留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立

- ① 数年間、留学生教育の質の向上とJLPT(日本語能力試験)4級以上全員合格の達成を目標に取り組んできた。
長崎校の令和4年12月4日実施の結果は次のとおりであった。
 - JLPT結果—受験者数50名
 - N3・・・1名中1名合格(合格率100%)
 - N4・・・49名中28名合格(合格率57.1%)
- ② 世界的なコロナ禍で、留学生の入学はまとまった入校でなかっただけに、日本語科職員も限られた人数の中で創意工夫しながら成果に繋いでくれたと評価している。特に、習熟度別学級編成、学科教職員の連携、労を厭わない教員の姿勢等々特筆すべき取り組みがあった。
- ③ 寮生活・学校生活共に安定していた1年であった。日本語教職員の地道で行き届いた指導はもちろんであるが、2カ月に1回実施している「留学生実態把握アンケート」、「生活の記録」とその後の「個人面談」の効果は大きい。オーバーワーク防止、学習支援、生活支援、経済支援等を通じての留学生と教職員の信頼関係の構築にも繋がっている。また、自治会や地域住民の理解もいただいております。地域行事やボランティア活動等の参加機会もいただいております。
- ④ 留学生教育の授業力と学級経営力アップ、学生のキャリア教育、留学生のニーズに応え得る進路先(大学、専門学校、就職)開拓等が喫緊の課題である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和4年度重点目標に対する総括

(4)「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化

①令和4年度から、学園挙げて従来からの「学校自己評価」の基礎となる教職員・学生アンケート(年2回)に加えて、個々の全教職員に本校独自の「個人自己評価」を年間で実施した。各教職員の取り組み目標を掲げているだけに、個々の教職員の仕事や事業等へのスキルアップや学校活性化等に繋がった。

②本年度の教職員・学生アンケートに見られた特徴としては、次のようなことが顕著であった。

(主な特徴)

- 教職員・学生ともに、全体的に評価が向上している。
- 教職員では、学校、教育環境に関する項目について向上幅が大きい。
- 学生では、学納金の妥当性に関する評価項目について向上幅が大きい。
- 学科別では、理学療法科が評価が低く、介護福祉科が評価が高い。
- 学年別では、上級学年になるについて評価が低くなっていく傾向がある。

③コロナ禍の3年間は、教職員はアウトプットに終始する傾向が強く、落ち着いて研修に取り組む機会は大幅に減少しただけに、「個人自己評価」の実施や、新任教職員研修等は人材育成効果は大きく、また、有意義であった。

(5)学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保

①4学科で、定員140名に対して、令和5年3月17日現在で119名である(その他入学辞退2名)。
今後、2名の職業訓練生を含めると121名と予想され、目標達成率は93.1%となる予定である。

②学科毎に見ると、理学療法科37名、介護福祉科40名、スポーツ柔整科23名、スポーツ鍼灸科21名である。

③今年度もフェスタ、オープンキャンパス、ガイダンス、離島を含めた高校訪問等学校体制として全職員で取り組んだ。
難しいコロナ禍であったが、入学予定者121名中、高校生は71名で昨年度に比べて13名増加したことは成果である。

④今年度の退学者・除籍者は15名であった。減少傾向にはあるものの、今後は、「入学してくれた学生は、必ず卒業させる」という信念をもって指導にあたり、教育の責任を果たしていかなければならないという思いを強くしている。

1. 学校の教育目標 令和5年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
 - (1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%の達成
 - (2) 社会人基礎力を身につけさせ、自立する職業人・社会人の育成
 - (3) 留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
 - (4) 「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
 - (5) 学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保
- 5 具体的な対策
 - (1) 「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
 - (2) 自立する職業人への準備教育の推進
 - (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4) 国家試験・進路指導の充実
 - (5) 留学生教育の質の向上
 - (6) 「個人自己評価制」の導入による学校活性化
 - (7) 「130名以上の学生募集」－各学科「+10名」の達成
- 6 地域社会等との豊かな関係づくり
 - (1) 学園グループビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (2) 関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「授業の充実」を通した「教育の質」の向上
 - ①教育の質の向上と学生の「与えられる学び」から「意思ある学び」への脱皮
 - ②学生の多様化・学力低下傾向に対する初期対応策と学級経営の充実
- (2)社会人基礎力を身につけさせ、自立する職業人への準備教育の推進
 - ①「心・技・体」を一体的に捉えた「巧の教育」の充実
 - ②人格形成を目指す人間教育と働きがい・生きがい等職業的実践教育の推進
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - ①学生の自己肯定感と「自律」から「自立」に向けた支援体制の強化
 - ②個別面談や行き届いた指導による学生理解と退学者10名以内の達成
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ①国家試験対策
 - 各学科の「国家試験年間指導計画」による成果に繋ぐ組織的な指導の推進
 - 模擬試験に向けた準備学習と「学科会」・「学力検討会」の開催
 - ②就職対策
 - 臨床実習と地域交流等の社会貢献活動の推進
 - 本校独自の「導入期教育」と「卒後教育」の充実
- (5)留学生教育の質の向上
 - ①留学生教育の充実と多様な進路先(大学・専門学校・就職等)の開拓
 - ②「生活の記録」と「留学生アンケート」等を通した基本的生活習慣の確立
- (6)「個人自己評価制」導入による学校活性化
 - ①「学校自己評価」や「個人自己評価」による個人のスキルアップと学校活性化
 - ②「報告・連絡・相談」の徹底と「組織として機能する学校づくり」
- (7)「攻めの学生募集」の推進－130名以上の学生募集
 - ①高校・整骨院等との信頼関係の構築－学校訪問, 情報提供, 広報啓発等
 - ②学校体制としての学生募集－広報委員会を中心とした全職員での学生募集